

- 薬物乱用を防止しましょう…賛助会員 久保田 貴子
- 経皮吸収型製剤を正しく使うために…大和市立病院 薬剤科 三田 恭平
- 毎日で、なくていいんです…社会医療法人財団互恵会大船中央病院 薬剤部 石井 弘幸

**どんな塗り方がありますか？**

●**塗布（とふ）**：優しく伸ばして塗る方法。  
ステロイド剤や保湿剤等の塗り方です。  
塗った後に皮膚にテカリが残る量が適量です。

**塗る量の目安**

チューブの塗り薬  
人差し指の先端から1つ目の関節まで出した量

ローション  
1円玉大の量

成人の手のひら2枚分が塗れる量です

●**塗擦（とさつ）**：肌に擦り込むように塗る方法。  
消炎鎮痛剤等の塗り方です。  
薬効成分の吸収を高めるために擦り込みます。

**いつ塗れば良いですか？**

- 入浴後の清潔な肌に塗ると良いでしょう。
- 入浴後に水分を拭き取り保湿剤を塗ることで、肌の潤いを保ちます。
- ご自身で塗りやすい時間を決め、忘れずに塗りましょう。

**複数の塗り薬を使う場合、塗る順番はありますか？**

- 塗る範囲が広い薬から塗りましょう。

**注意：医師から用法・用量の指示がある場合には、そちらに従って下さい**

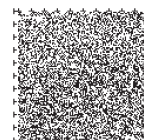
公益社団法人 神奈川県病院薬剤師会

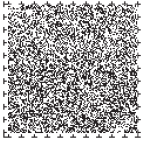


<表紙写真>くすり Get the Answers かながわ 推進委員会 パネルIX：塗り薬の使い方編

2018年度に作成した、薬の使い方を紹介したパネルです。以前にも「くすりの飲み方編」を作成しましたが、その続編として外用薬の中より塗り薬について使い方を紹介しています。今後も続編を作成して参りますのでよろしくお願いたします。

私たちは、一般市民に対して医薬品や健康に関する正しい知識の普及と啓発を目的として小冊子を発行しています。小冊子には、音声コードが印刷されています。音声読みあげアプリ「Uni-Voice」と活字文書読みあげ装置の両方で使用できるようになりました。ご活用いただければ幸いです。





## 薬物乱用を防止しましょう

薬物乱用防止対策には、不正栽培や自生する大麻・けしの撲滅や正しい知識の普及を目的とした「不正大麻・けし撲滅運動」や、薬物乱用問題に対する国民一人ひとりの認識を高める目的の「ダメ。ゼッタイ。」普及運動、薬物乱用による危害を広く認識し弊害の根絶を目的とした「麻薬・覚醒剤乱用防止運動」などさまざまな事業が行われています。

「薬物乱用」とは、医薬品ではない薬物を不正に使うことや、病気治療などの本来の目的以外で使用することです。乱用される薬物には、覚醒剤、大麻、麻薬（ヘロイン、コカイン、MDMA等）、危険ドラッグ等があります。

最近の傾向として、未成年者や20歳代の若者に大麻の乱用が増加しています。これには、危険ドラッグの規制が強化され入手しにくくなったことや危険ドラッグの危険性が広く知られるようになったためと思われます。

海外では一部で大麻の使用ができる国もありますが、これは大麻売買に関連する犯罪組織の資金源を縮小させたい、販売による税収を上げたい、増大している大麻事犯の対応や医療用麻薬の乱用を減らしたい等の、その国の事情もその背景にあると言われています。大麻の使用が認められている地域へ渡航する際は、注意が必要です。

薬物を使い始めるきっかけはいろいろあります。「やっていないのは君だけ」「体への悪影響が無い」等いろいろな誘い文句や、周りとうまくやっていきたい（断りきれない）・抱えている問題から逃げたい等の思い、好奇心等から安易な気持ちで使い始めます。使用は一度だけ、自分の意思でコントロール出来ると思っても、同じ効果を得るために使用量や回数がいつしか増えていき（耐性）、やがて依存となっていることに薬物の危険性があります。乱用を繰り返すうちに、脳が壊れて記憶や知的機能の低下、幻覚、気力が無くなり社会生活にも支障が出てきます。一度壊れた脳は薬物を止めても治りません。また、乱用を止めても不眠やストレスなど些細なきっかけで幻覚・妄想などの精神症状（フラッシュバック）が現れる可能性は生涯続きます。このため薬物乱用防止が重要なのです。

薬物乱用は、限られた一部の人のことではなく、誰の身近にも起こる可能性があります。自分の将来や家族を守るためにも、薬物についての正しい知識を持ち、薬物の乱用を未然に防ぎましょう。



神奈川県病院薬剤師会 賛助会員 久保田 貴子

中学生・高校生対象

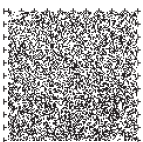
### 病院薬剤師体験セミナー

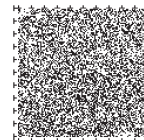
病院薬剤師の仕事に興味がある学生の皆さま、毎年好評いただいている本イベントを今年度も実施します！お申し込みをお待ちしております。

**日時** 2019年8月21日（水）13:00～16:30  
**場所** 横浜市立大学附属病院（金沢区福浦3-9）



お問い合わせ：神奈川県病院薬剤師会 045(761)3345  
またはホームページをご覧ください





## 経皮吸収型製剤を正しく使うために

布やプラスチックフィルムに有効成分と基剤の混合物を薄く延ばし、皮膚表面の患部または皮膚を通じて全身へ有効成分を到達させる製剤を貼付剤といいます。湿布薬に代表される貼付剤の多くは、貼った部位にのみ効果が現れる「局所作用型」の薬です。一方、有効成分が皮膚を透過し、血管やリンパ管に入って全身に効果が現れるように設計された「全身作用型」の製剤は「経皮吸収型製剤」として分類されています。

この経皮吸収型製剤の利点として、①安定した効果の持続が期待できる、②副作用軽減が期待できる、③内服が困難な状況でも使用できるなどが挙げられ、薬剤によっては患者さんに合わせた投与方法の選択肢が増えています。

具体的には、医療用麻薬や消炎鎮痛薬のほか、気管支喘息、狭心症、アレルギー性鼻炎、パーキンソン病、認知症などの治療薬があります（表1）。

加えて、近年では様々な疾患の治療に対する新たな製剤の開発が進められています。

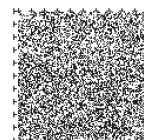
治療薬分類	主な商品名	有効成分
気管支喘息治療薬	ホクナリンテープ®	ツロブテロール
狭心症治療薬	フランドルテープ®	硝酸イソソルビド
アレルギー性鼻炎治療薬	アレサガテープ®	エメダスチンフマル酸塩
パーキンソン病治療薬	ニュープロパッチ®	ロチゴチン
医療用麻薬	フェントステープ®	フェンタニルクエン酸塩
消炎鎮痛薬	ロコアテープ®	エスフルルピプロフェン・ハッカ油配合
認知症治療薬	イクセロンパッチ® リバスタッチパッチ®	リバスチグミン

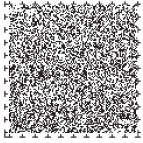
表1 主な経皮吸収型薬剤

全身作用型の経皮吸収型製剤は飲み薬と同様に、決められた用法・用量を守って使用することが大切です。例えば、消炎鎮痛剤であるロコアテープ®は、従来の湿布薬と用途も外観も似ていますが、ハッカ油配合によって有効成分の吸収が促進されるため、誤った使い方をしないように注意する必要があります。従来の湿布薬のように複数の部位に何枚も貼付すると、数回分の消炎鎮痛剤を一度に飲んだことと同じとなり、胃腸障害などの副作用が出やすくなります。

また、薬剤を貼った部位の皮膚がかぶれることもあるため、全身作用型の薬剤の場合、毎回同じ部位に続けて貼らずに、貼る部位をその都度変更する必要があります。さらに、薬剤ごとに定められている交換時期がありますので、ご自身の使用されている薬剤の使用法や注意事項について改めて確認しておくようにしましょう。

大和市立病院 薬剤科 三田 恭平





## 毎日で、なくていいんです

“便秘”他人に言えない大きな悩みですよね。入院している患者さんの多くは治療する病気以外の悩みとして“便秘”で困っていると聞きます。2017年10月、日本消化器病学会関連研究会、慢性便秘の診断・治療研究会より「慢性便秘症診療ガイドライン」が出版されました。このガイドラインでは便秘は「本来体外に排出すべき糞便を十分量かつ快適に排出できない状態」と定義されています。診断基準を以下にお示しします。

### 1. 「便秘症」の診断基準

以下の6項目のうち2項目以上を満たす

- a. 排便の4分の1超の頻度で強くいきむ必要がある
- b. 排便の4分の1超の頻度で兎糞状便または硬便（BSFS\*でタイプ1か2）である
- c. 排便の4分の1超の頻度で残便感を感じる
- d. 排便の4分の1超の頻度で直腸肛門の閉塞感や排便困難感がある
- e. 排便の4分の1超の頻度で用手的な排便介助が必要である（摘便・会陰部圧迫など）
- f. 自発的な排便回数が、週3回未満である

### 2. 「慢性」の診断基準

6か月以上前から症状があり、最近3か月間は上記基準を満たしていること

※BSFS：プリストル便形状スケール

#### 便の形状 (プリストルスケールによる分類)

タイプ1		コロコロした便
2		ソーセージ状だが硬い便
3		表面にひび割れのあるソーセージ状の便
4		軟らかいソーセージ状の便
5		軟らかい半分固形状の便
6		泥状の便
7		水様の便

※「慢性便秘症 診療ガイドライン」を参考に作成

このように便秘の定義は難儀です。便の回数でも量でもなく形状でもありません。臓器の形態や働きによるものかの判別も必要です。基本は適度な運動や食事による改善も便秘の改善の可能性を高めることが示されていますが、改善せずに上記診断基準に当てはまる場合は薬物治療の適応となり、プリストルスケールタイプ3～5くらいに調整していきます。気になる方は早期の受診や医師、薬剤師にご相談して頂ければと思います。

また、便秘という「下剤」を連想する方も多いと思います。近年、慢性便秘症には刺激性下剤は必要時にのみ使用することが推奨され始めています。昨年海外の便秘診療ガイドラインでも有効性が示されているポリエチレングリコール製剤の下剤が国内で保険適応となりました。この製剤は浸透圧性下剤と言われる腸管内の水分量を増加させ、腸管内の水分を保持すること

で便中水分量の増加及び便容積の増加をもたらす結果、排便を促します。海外では小児でも使用されており安全性が高く発売が待ち焦がれていた製剤と言えます。長い間便秘で悩んでいる方、この機会にかかりつけ医又はかかりつけ薬剤師にご相談してみたいかがでしょうか。

社会医療法人財団互惠会大船中央病院 薬剤部 石井 弘幸

《編集後記》活躍する薬剤師を紹介しています。今後も様々な事業を企画してまいります。ご要望などございましたら、下記の事務局までご連絡お願いいたします。

《発行》公益社団法人 神奈川県病院薬剤師会 GTA 委員会

〒235-0007 横浜市磯子区西町14-11 神奈川県総合薬事保健センター 4階

TEL：045-761-3345 FAX：045-761-3347

インターネットアドレス <http://www.kshp.jp/>

